

命どう宝

石垣第二中学校 二年 大城 花菜

沖縄戦。私はこの言葉をきくと、悲しくなる。何の罪もないのに、戦争のせいで殺される人々。今の時代では考えられないような光景が広がる沖縄。こんなことを考えると、こわくて震えそうになる。

今から約七十年前、日本はアメリカと戦争をしていた。沖縄が戦地となり、沖縄本島では上陸戦がだんだんと激しさをましていた。そんな中、八重山ではマラリアの被害しかないと思っている人が多いが、実は石垣島でも空襲がけっこうあった。その中でもあまり知られていないのがみのかさ部隊だ。普段は家業をし、生産活動に従事しながら訓練を実施し、有事の際は実戦部隊を補助することがみのかさ部隊の仕事。だが、軍服や武器は支給されず、毎日スコップをもって飛行場の補修作業に明けくれた。作業中に敵機が来襲し、犠牲者が続出した。でも、今は学校ではみのかさ部隊を教えられたことがない。敗戦で軍事を語ることがタブーになり、今はもう忘れ去られてしまった。こんなに大変なことが語りつけられずに、マラリアや上陸戦が語りつがれている。この話を知っているのは、私のひいおばあちゃんの歳くらいの人だけだ。私のひいおばあちゃんもこの時代に生きていて、家族でとなりの台湾に疎開した。私が戦争のことをきいたとき、ひいおばあちゃんは悲しそうな顔をして、私に教えてくれた。

「戦争はしない方がぜったいにいい。私の周りには、戦争で家族をなくした人がたくさんいる。今は平和な石垣島だけど、七十年前はとても考えきれないような光景が広がっていたよ。マラリアの被害もすごかった。上陸戦の被害もすごかった。けど、石垣の空襲もすごかったよ。お墓や防空壕にかくれて、こわくてねむれなかったときもあったよ。」

この話をきいて、戦争は大変だったんだ、どんなに悲しく苦しい思いをしたか、もし私がこの時代にうまれて、戦争を体験していたら。考えるだけでゾッとします。

これからもずっと、平和な世界がつづいてほしい。今、世界のどこかでは、戦争で命を落とす人がいる。こんな世界を作るのはいけないことだ。私たち人間が武器をもって争わないと戦争は絶対におこらない。まずは、大人が子供の見本となって、争いをおこすことをやめよう。これから先の未来には、戦争がない世界、争いがない平和な世界を作っていこう。罪もない弱い人たちが、世界のどこかで殺されていく。こんな悪いことをおこさないようにしよう。平和な世界にしよう。

ぜったいに戦争をおこしてはいけない。争いをおこすより、仲よくしているほうがみんな気持ちがいい。世界の子供たち、大人たちが協力して、争いのない世界をつくっていききたい。命どう宝だから。